

家庭訪問－支援の視点

不登校が長期に継続することは、本人の進路や「社会的な自立」にとって望ましいことではありません。不登校が継続していても、生涯学習の基盤となる「学力」や対人関係の取り方などの「社会性」を身に付けていくことは、極めて重要なことです。

不登校が継続している子どもに指導・援助をすすめるうえで、登校を促す働きかけや関わりのみならず、場合によっては家庭への訪問等による学習や進路支援も必要な方法といえましょう。

はじめに

どの子どもたちにも豊かな人間性や社会性を身に付けさせ、社会の構成員として必要な資質や能力を育み、将来の「社会的な自立」につなげていくことが求められています。

不登校が継続している子どもに対して、この「社会的な自立」に向けて支援することはとても重要なことです。

特に、中学校における不登校では、本人の「進路の問題」としてとらえ、進路実現に必要な学習支援や情報の提供を本人の状況に応じて行う必要があります。

家庭への訪問等による支援のねらい

不登校が継続している子どもに対する、家庭への訪問等による支援のねらい

不登校の状況が継続している子どもに対して、本来、学校生活で身に付けていく生涯学習の基盤となる「学力」や対人関係の取り方や結び方などの「社会性」を、家庭への訪問等によって育む支援をし、将来における「社会的な自立」につなげるものである。

家庭への訪問等による支援の視点

学校に登校できない子どもたちに対して、将来の「社会的な自立」に向けた家庭への訪問等による支援の視点としては、次の2つが考えられます。

将来の「社会的な自立」に向け、対人関係の取り方や結び方、基本的な生活習慣や規範意識などの「社会性」を育む『社会への橋渡し』の視点

学びへの意欲や学ぶ習慣を含んだ生涯学習の基盤となる基礎学力を育てる『学習支援』の視点

これらの視点で、家庭への訪問等による支援をとおして、不登校が継続している子どもたちに対して働きかけていくことと、必要な関わりをもつことは極めて重要です。

家庭への訪問等による支援のポイント

不登校が継続している子どもたちの「社会的な自立」に向けた家庭への訪問等による支援のポイントとして、次のことが考えられます。

『社会への橋渡し』の視点

健康面、食事や睡眠時間などの基本的な生活習慣を振り返らせ、見つめさせる。よくやっていることやよい生活習慣に対しては「よくやっているね」、「がんばっていたね」などのことばがけに努める。家族の一員として果たせる役割をできそうなところからたせ、少しでも役割を果たした場合には、「みんなの見ていないところでがんばっているね」などと、その取組をたたえる声がけに努める。

学校行事や学級生活の様子を伝え、学校や学級の一員であることを意識させるように働きかける。

登校できずとも家庭の中で取り組めそうな学級の活動や学校行事に関することは、できるだけ取り組ませる。

その取組の経過や成し遂げたことが小さなことであっても、本人には取組への努力を認めることばをかける。

家庭への訪問等を行う支援者（担任等）とのあいさつの交わり方やお礼の仕方などをおして、直接対人関係の取り方を学ぶ機会にもなります。

『学習支援』の視点

不登校が継続している子どもに対し、生涯学習の基盤となる学習意欲や習慣を含めた基礎学力が身に付くように、本人の学習状況に応じた個別の学習支援を工夫する。

保護者に定期的な来校をお願いするなどの家庭の理解と協力を得ながら支援をすすめる。

学校と家庭（保護者）が同じ方向で協力して働きかけていくことが大切です。